



想像力から創造力へ、つながる授業

教育学部 久保村 里 正



岐阜市立女子短期大学生生活デザイン学科での10年間の勤務を経て、2009年4月に文教大学教育学部学校教育課程美術専修に着任。自身の専門は基礎造形学であるが、その中でも造形要素の組み合わせによる造形メソッドを用いた基礎造形教育法について研究をすすめている。大学での担当科目は基礎造形教育法に関連した領域として、教科教育に関する科目、デザインに関する科目、美術理論に関する科目など、多岐にわたっている。

(くぼむら りせい)

『教科教育法「美術」4』は、美術科教育における表現と鑑賞という2領域のうち、鑑賞に主眼を置いた授業である。鑑賞教育は独立単位として実施や、表現活動と連動した過程としての鑑賞や、授業時間外での展示の鑑賞などあるが、本授業では鑑賞教育の運営について、計画や作業分担の模擬授業体験を通して理解し、表現と鑑賞の指導法を習得していく。

1. 授業のねらい

この授業の内容はアートプロジェクト、パブリックアートなどの企画・制作と展示、鑑賞活動を通して、アートの社会性を考えることである。制作は共同でおこなうが、その過程としてブレインストーミングを用いている。はじめの授業でアートプロジェクトや、パブリックアートの歴史や現状を講義で学び、その後、参加学生全員でブレインストーミングを行い、アートプロジェクト・パブリックアートの企画を立案している。制作・展示に係る計画や周囲との交渉などは、一貫して学生が主体的に行っており、必要に応じて教員が支援している。但し、半期という短い期間で計画から実施まで行っているため、円滑に計画が進まないと展示が出来ずに授業が成立しないことから、タイムスケジュールに関しては、やや教員の指導を強めている。

実際の展示（実施）期間は12月頃から1月末までとなるが、これはその年の実施する内

容と施設の利用状況によって異なってくる。展示は主に学内で行っているため、大学の行事日程に左右されることが多く、年末年始の大学の授業がない期間に実施すると、せっかく展示を実施しても参加する人が少なくなってしまうので、12月から1月までの期間では、実際に展示可能な日は限られるのが実情である。

2. 授業概要

前述のようにアートプロジェクトの内容は、ブレインストーミング（BS法）を用いて決定している。しかしBS法については、授業の講義による説明だけでは、なかなかうまくいかないことから、アートプロジェクトのBS法を行うにあたって、仮のテーマでBS法の練習を行っている。

1) BS法の練習

仮のテーマは例年同じものを用いており、

「北越谷で繁盛するカレー屋を経営する」としている。これはカレーが、人気で誰もが知っている食事であること、カレーが多様なイメージを生み出す可能性が高く、豊かな発想、議論ができる可能性を持っているからである。実際に、授業でこのテーマで行うと学生は「味」「値段」「量」「サービス」などの様々な視点から多くのアイデアが出て議論が盛り上がり、その次のアートプロジェクトのBS法へつなげる重要な役割を担っている。

2) BS法によるプロジェクトの決定

本番のBS法では、「多くの人に参加できる楽しいアートプロジェクト」をテーマに、最低でもアイデア100個を目指して行うが、議論の盛り上がりは、その年のクラスの雰囲気や、議論をリードするチアマンの力量によって異なってくる。先の練習で議論の場が温まっているとアイデア出しのブレイクスルーが発生することもあるが、クラス内のコミュニケーションが少ない学年や、自制心が強い学生が多い場合には、どうしてもユニークなアイデアが出にくく議論が広がらない傾向がある。アイデアがうまく出ない場合には、講義で説明したBS法のルールやコツを、必要に応じて再度示したり、アイデアを例示したりするなどの支援を行っている。

アイデアが100以上出てくると次第にアイデアが出にくくなるため、その後、アイデアの収斂にうつるが、アイデアをまとめて結論に導くことは、学生にとってアイデアを出す以上に難しい作業となっている。場合によっては、ただ単に不可能なアイデアを全て切り捨て、数あるアイデアの中で一番手軽なものを選択するなど、BS法の意味を損ねる場合があるので、アイデアを切り捨てるのではなく取り入れる志向を促す必要がある。

3) 計画と実施

アートプロジェクトの内容が決まると、次は実施計画を立てて制作に移行する。実施計画については大学などとの交渉も含まれるが、交渉相手は大学だけではなく、「餅つき」や「足湯」を実施した際には、保健所との交渉も必要となってくる。学生にとっては書類を作成し交渉するという行為が慣れていないため苦にしているようだが、4年時に卒業制作

展で埼玉県立近代美術館との交渉が必要となってくるため、その練習になっている。

この授業で過去に行った企画は2010年から、「バス停プロジェクト」、「KISSプロジェクト」、「フリーアートウォールプロジェクト」、「いちごプロジェクト」、「ゆるキャラ神社プロジェクト」、「お菓子の家プロジェクト」、「エレベータージャック」、「UFOプロジェクト」、「足湯プロジェクト」、「はんぶんこプロジェクト」、「名画体験プロジェクト」、「海の中プロジェクト」、「お菓子のまちプロジェクト」となっている。

これらのアートプロジェクトの名称をみると、「足湯」などアートからややかけ離れた企画も存在するが、嗜好に関してはアートの視点を持つように助言をしながらも、学生の自由な発想と選択を重視している。またアートが広がりを持ち個人の生活や社会へとつながりを感じさせることに気を付けて指導している。

3. 学生の感想

この授業は「まとめ」として、プロジェクトの実施後にレポートを提出させている。そのレポートの考察を分析すると、授業を楽しみにしている学生がいる一方、大変だと感じている学生もあり、その内容は主に、共同で実施する中でのコミュニケーションの難しさ、役割の分担に関する不満となっている。これらの難しさは、おそらく学生の主体性に起因するもので、これは学生が苦手としている部分で、この授業が育てようとしている能力の要諦だといえる。この授業を通して学生が主体性を持ち、社会における美術教育の意義を考え、美術によって人間が文化的で豊かな生活がおくれる社会を作り上げるのだという意識を持った教員が育成できたらと考える。



「名画体験プロジェクト」(元荒川で撮影)